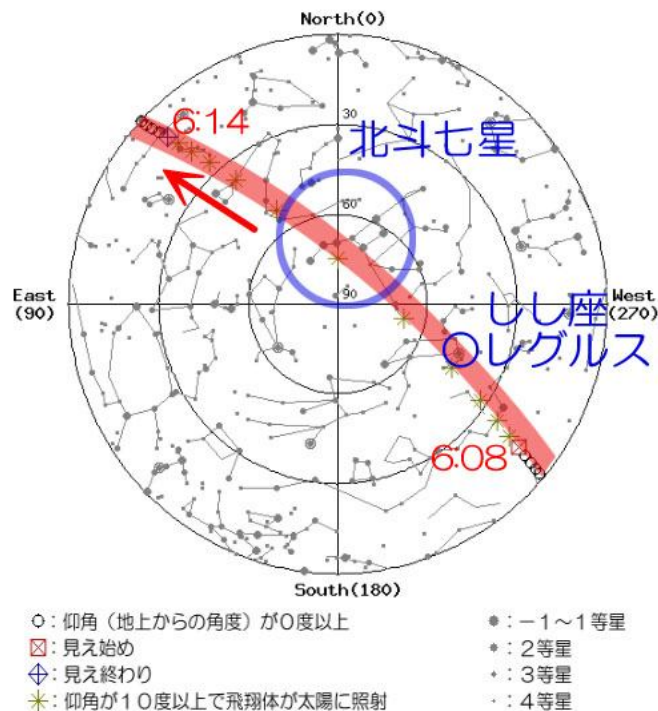


「金井宇宙飛行士が乗った ISS が
12月27日に地上から肉眼で見える！」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

金井宣茂宇宙飛行士が、国際宇宙ステーション (ISS) に到着し、さっそくさまざまな活動を始めている。地上からわずか400kmとはいえ、宇宙空間に近い場所に日本人がいて、活躍しているということは、非常に誇らしいことである。そのISSが、12月27日(水)の午前6時過ぎに、日本列島を縦断する。



上図は、東京から見た今回の飛行経路を星図上に表わしたものだ。天球を「下から見上げた図」なので、通常の間図とは東西が逆に描かれている。南西の地平線から現れ、しし座の一等星「レグルス」のすぐ脇をかすめる。一番の見どころは、天頂付近で北斗七星を横切ることだ。朝6時過ぎなので、すでに空は白んでいるだろうが、まだ北斗七星は見えると思う。下の写真のようなイメージになるだろう。



この日のISSは、朝6時8分ごろに那覇上空に達し、その後太平洋岸を北東方向に進む。6時11分ごろ東京上空に達し、金星よりも明るく見えるはずだ。今回の通過は非常に観望条件が非常に良く、恐らく日本の領土すべてで観望が可能だと思われる。

イベント	時刻[JST]	方位角(度)	仰角(度)	直距離(km)
仰角が0度を超えた直後	06:06:30	230(南西)	-	2106
見え始めのとき	06:08:30	232(南西)	13	1284
仰角が最大のとき	06:11:30	359(北)	75	421
見え終わりのとき	06:14:30	46(北東)	11	1414
仰角が0度を下回る直前	06:16:30	47(北東)	-	2238

上表は、東京での見え方の一覧である。見え始めは6時8分。沖縄上空にあるISSがすでに見えていることになる。最接近は6時11分30秒。仰角は75°だが、見た目はほぼ天頂に見える。観測者とISSの直線距離も421kmと、かなり近い。見え終わりは6時14分。約6分間見え続けることになる。



「北斗七星を横切るISS」2017年1月1日 C.Tanaka

ISSは地上から肉眼で見ると、金星よりも明るい「光の点」がかなり速く移動してゆく。その「光の点」の中に、金井宇宙飛行士という日本人が搭乗している。是非、子どもたちにも宣伝して、冬休みの一日、少し早起きをして観望してもらいたい。